

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

国立公文書館	
分類	(返) (赤)
配架番号	3 A
	14
	32-32

1039

試製二式船舶用中迫撃砲説明書

昭和十八年六月
第一陸軍技術研究所調製

国立公文書館	
分類	
配架番号	
	32-32

試製二式船用中迫撃砲説明書

目次

第一篇	総説	一
第二篇	構造及機能	四
第一章	砲	四
第一節	砲身	四
第二節	揚架	六
第三節	駐退機	八
第四節	復坐機	一三
第五節	砲架	一五
第六節	高低照準機	一七

第七節	距離板	一八
第八節	方向照準機	一九
第九節	觀準儀托架	二〇
第十節	架匡	二二
第十一節	屬品	二四
第三篇	取扱	三三
第一章	分解及結合	三三
第一節	通則	三三
第二節	制限	三三
第三節	主要部分ノ脱落	三四
第四節	擊発機	三四

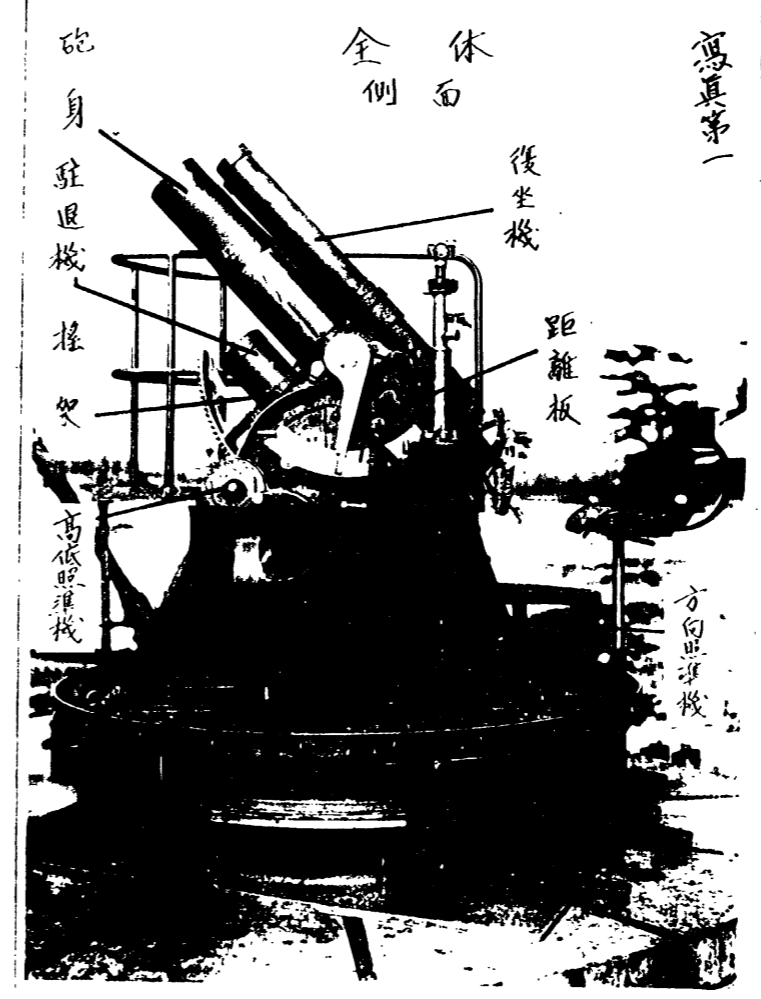
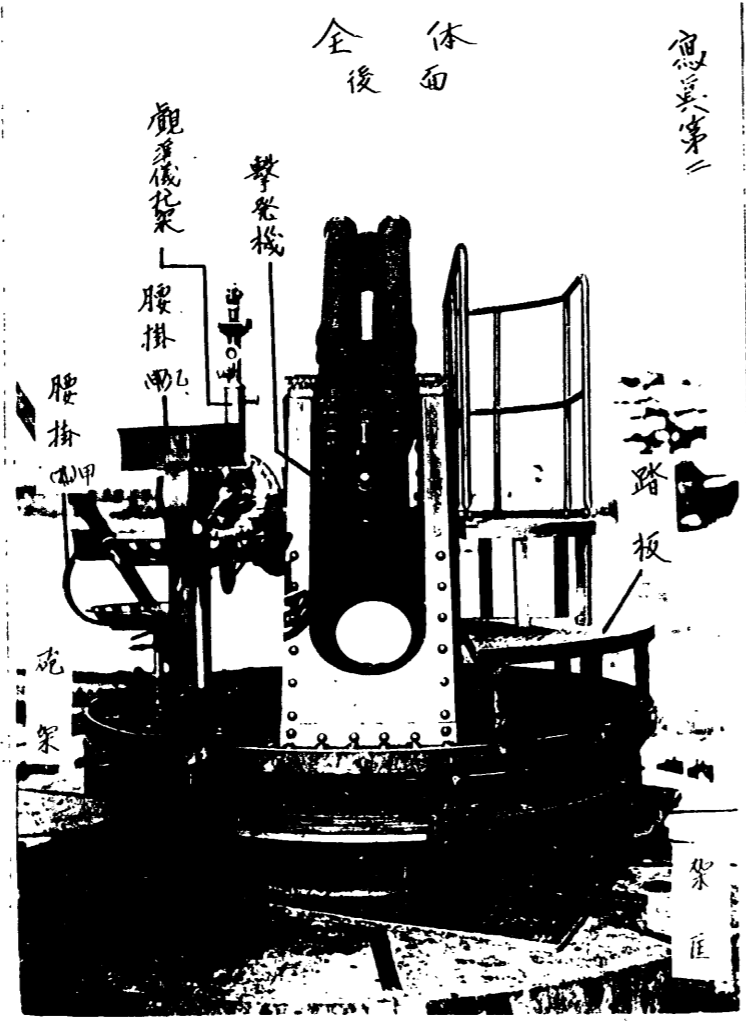
第五節	駐退復坐機	三六
第四篇	射撃上ノ注意	三八
第一節	射撃前ノ注意	三八
第二節	射撃間ノ注意	三九
第三節	射撃後ノ注意	四〇
附表	試製二式形船用中迫撃砲諸元表	

試製二六形船用中迫撃砲説明書

第一節 概説

本火砲八九六式中迫撃砲彈薬ヲ其ノ儘使用シ得ル形船用ノ中迫撃砲ニシテ船舶上ニ据付ケ全周方向射界ヲ附与シ得ル如クセラルアリ

砲身 揚架 駐退機 復生機 砲架 高低照準機 方向照準機 観準儀
托架 架匡 属品等ノ主要部ヨリ成ル



第二編 構造及機能

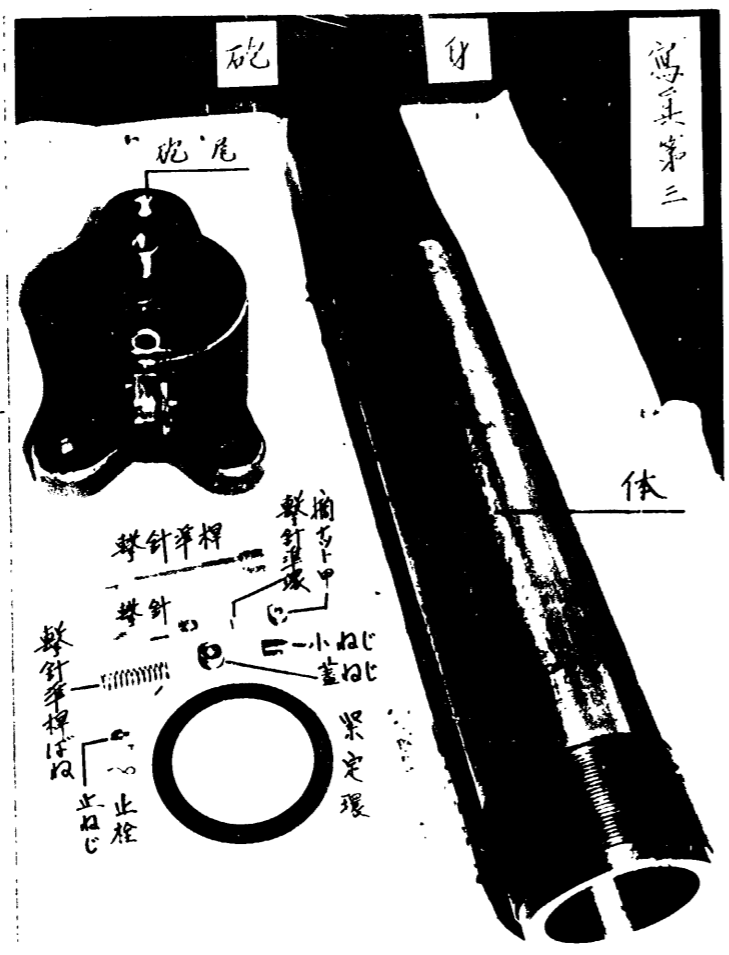
第一章 砲

第一節 砲身

第一 砲身ハ尾ノ主要部ヨリ成ル

体 砲尾撃発機

体ハ滑腔ノ円筒形ヲ成シ後端ニハ、
 砲尾ノ上部ハ復坐機下部ハ駐退機ト結合スバ、
 下部ヲ有シ内面ニ「めねじ」ヲ刻シテ体ト螺合シ又内面中央ハ突起部ヲナシ此ノ
 部ニ撃針突出用ノ孔ヲ穿テ之ト通交シテ筒状部底面ニ撃針洋室
 ヲ有ス



寫真第三

第二

撃発機ハモノ主要部ヨリ成ル

撃鉄 同バノ同軸 同半全栓 撃針準桿 同バノ 撃

針準環 楠「ナット」(甲) 止栓 準桿安全栓 同バノ

ねじ筒 撃針 蓋ねじ 押ねじ托板 小ねじ 押ね

じ 楠「ナット」(乙)

撃針ハ円錐形ノ中穴ニ短形ノ斜孔ヲアケ 撃針準桿ノ

通路トス而シテ撃針ノ突出量ハ三程ナリ

撃針準桿ハ撃針ノ斜孔ヲ通り下部ハ撃針準環ヲ装シ楠

「ナット」ニ依リ止ム

其ノ上部ニハ撃針準桿バノヲ表シ撃針準桿ヲ常ニ上方

ニ圧シ從ツテ撃針準環ハ撃針相當下面ヲ圧シテ之ヲ後

退セシメアリ上部ニハ準桿安全栓ノ入ルベキ溝ヲ有ス

押ねじ托板ハ小ねじニ依リ撃針準桿室上部ニ軸上メセ

ラレ押ねじヲ以テ其ノ下方突出部ヲ正定シ墜発ヲ行フ

場合之ヲ反転シテ撃針準桿頭ヲ圧シ下ゲ撃針ハ突出位ニ置ニ止メラル

撃鉄ハ砲尾上ニ撃鉄軸ヲ以テ軸止メセラレ其ノ内部ニ撃鉄ばねヲ結合シ常ニ頭部ヲ上方ニアラシム

前方臂ノ環孔ニハ拉繩ヲ装シ之ヲ牽引スルコトニヨリ撃鉄ヲナス

撃鉄安全栓ハ撃鉄軸後部ノ把子ヲ前方ニ倒スコトニヨリ撃鉄ノ運動ヲ止ムルモノニシテ一方中央ノ偏心軸部ハ準桿安全栓ニ作用ス即チ其ノ後部ノ縦方向ニ結合セラル準桿安全栓ハばねニ依リ前端ヲ常ニ撃鉄安全ニ圧定シアルヲ以テ其ノ回転ニ依ル偏心量ヲ後方ニ突出シ撃針準桿頭部ノ孔ニ入りテ之ヲ止メ從テ撃針ノ前後運動ヲ不能ナラシム

第二節 搖架

第三 搖架ハ左ノ主要部ヨリ成ル

架体 防危板 防塵板 齒弧

架体ハ内部ニ砲身ヲ抱擁シ上部ニ復坐機室下部ニ駐退機室ヲ成形ス

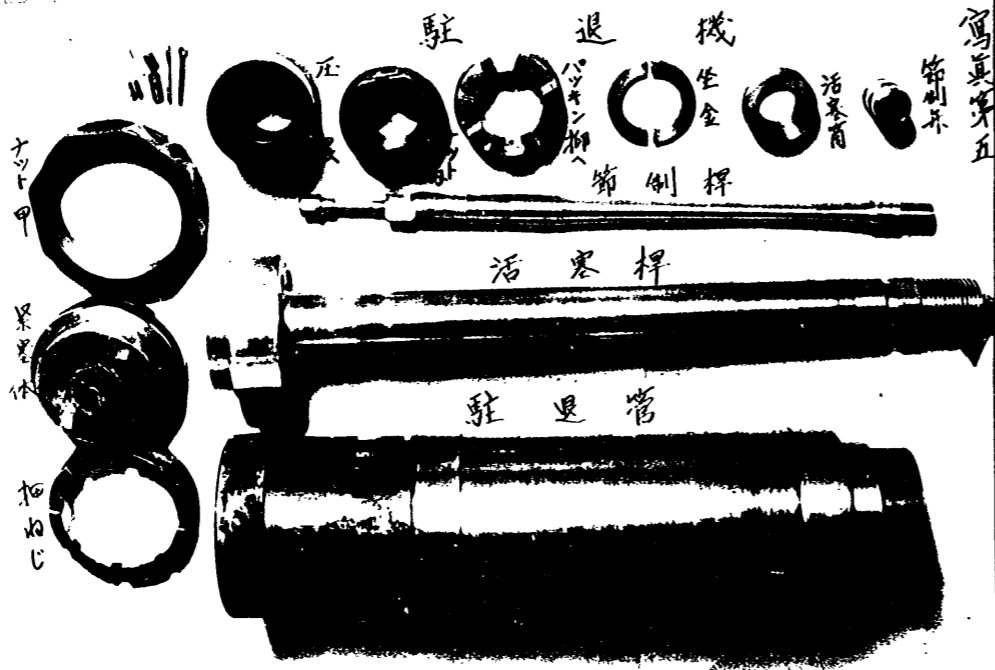
砲身滑走部ニハ前後ニ軸筒ヲ装シ中央部兩側ニハ砲耳ヲ成形シ左方ノ砲耳ニハ指針ヲ結合ス

防危板ハ波形ノ板ニシテ架体ノ左側ニ結合セラル

防塵板ハ砲身滑走部前面ニ結合セラル

齒弧ハ架体ノ駐退機室下面ニ結合セラレタル断面I字形ノモノニシテ下面ニ齒弧ヲ有シ高低照準機ノ軸中央ノ齒部ト啮合ス

めくれず



第四 駐退機ハ厄ノ主要部ヨリ成ル
駐退管、活塞桿、節制桿、緊塞具

第三節 駐退機



駐退管ハ内部ニ右塞桿、節制桿ヲ收容シ管ノ前方ニハ
 緊塞体ヲ以テ緊塞シ後方ニハ緊塞具ヲ結合ス
 治塞桿ハ頭部ニ外筒ヲ付シ付シ駐退管内臂ト挿入内部
 ニハ節制桿ヲ開テ内部前端ニ治塞筒ヲ付シ付ス
 節制桿ハ緊塞体ニ付シ付セラレ後端ニ節制弁ヲ結合シ
 治塞桿内ニ進入ス
 緊塞具ハ駐退管内壁及右塞桿外周ヲ緊塞スルモノニシ
 テ射撃ニヨル液圧ニ依リ緊塞環及V形パツキン、華環ハ
 益々緊塞ヲ良好ナラシムルモノトス

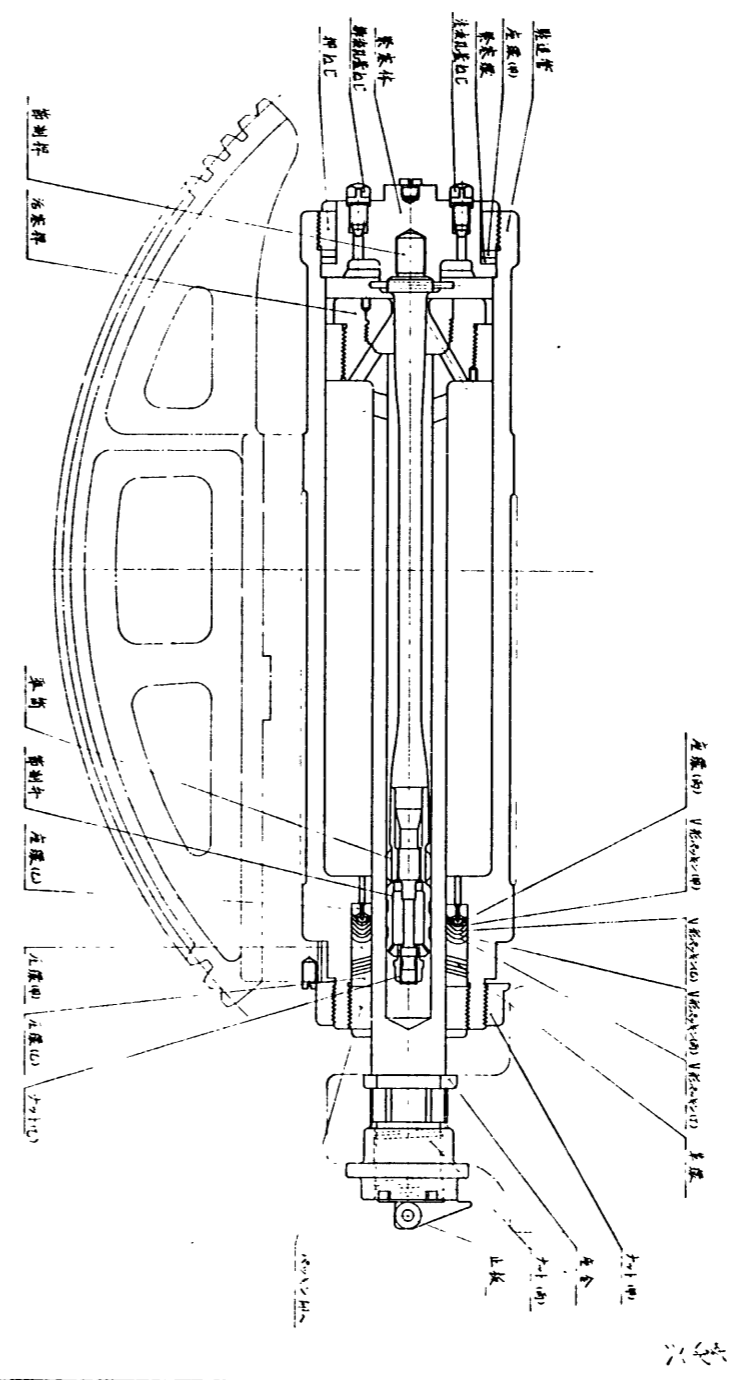
第五

駐退機能ノ機能
 一 駐退機能 彈丸発射セラル、マ絶身ハ後坐運動ヲ始メ
 治塞桿ヲ伴ヒ駐退管ヨリ後退シ治塞桿頭部ハ駐退管
 前方ヨリ後方ニ移動ス從テ治塞桿頭部ノ液ノ大部
 分ハ治塞桿頭部及頸部ノ流通孔ヲ通り治塞桿頭部前

方及内部ニ流入ス一部ハ節制弁ノ外筒及花弁状漏
 孔ヲ通シ節制弁後方右塞桿中空部ニ流入ス
 而シテ絶身後坐スルニ從ヒ治塞筒ト節制桿外周ト
 ノ漏孔ハ縮少シ後坐長約ニ六〇能ニ至レハ後坐漏
 孔ハ殆ド瘳トナリ全ク後坐ヲ止ムルニ至ル
 二 復坐節制機能 後坐終ルマ復坐機ノ作用ニ依リ復坐
 ヲ開始シ治塞桿ハ前進スルヲ以テ節制桿内部ノ空
 ニ進入ス
 此ノ際節制弁ハ液圧ニ依リ準筒ニ圧着セラレアル
 ヲ以テ内部ノ漏孔ハ閉塞セラレ液ノ通路ハ節制弁
 外周ト節制桿外周ト治塞筒内周ノ復坐節制漏孔ノ
 ミトナル
 而シテ節制桿ハ前方ニ至ルニ從ヒ中玉ヲ大ニシ後
 坐ノ進ムニツレテ漏孔ハ小トナリ復坐力ヲ節制シ

復坐終期ニ於ケル撃突ヲ防クモノトス

銃機ニ於テ用中迫撃砲
駐
道
機



第四節 復坐機

第六 復坐機能ハ左ノ主要部ヨリ成ル

ばね筒 曳棒 復坐ばね

ばね筒ハ揺架ニ結合セラレタル円筒ニシテ内部ニ曳棒

復坐ばねヲ收容ス

曳棒ハ外周ニ復坐ばね前方ニ「ナット」ヲ結合シ後端ハ砲

身ノ耳部ト結合ス

復坐ばねハ鋼製円筒形蛇線ばねニシテ左右ばね筒内ニ

左巻ニ箇右巻一箇ヲ一組トシテ結合ス

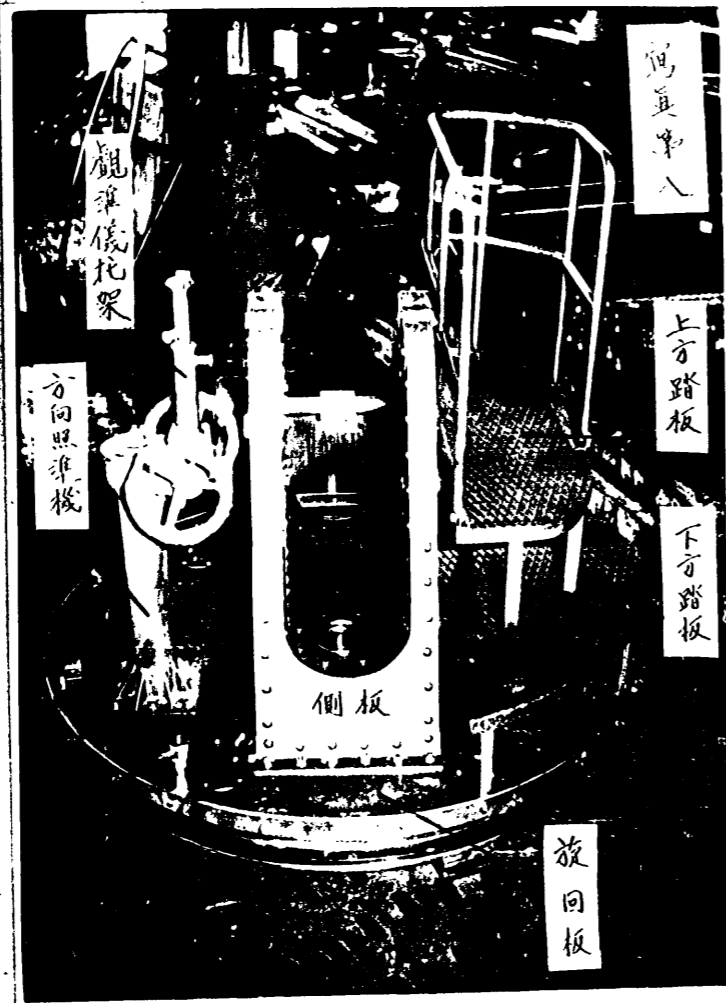
ばねノ前方ハ正板(甲)後方ハ正板(乙)ニ依リ支ヘラル

第七 復坐機ノ機能

彈丸發射セラル、後坐台戎体ハ後坐運動ヲ起ス

此ノ際曳棒ハ前端ノナットニ依リ復坐ばねハ正縮セラ

レ後坐運動終ルヤ正縮セラレタルばね正ニヨリ砲身ヲ



第五節

観望儀托架

上方踏板

下方踏板

側板

方向照準機

旋回板

第八節 第五節 砲架
砲架ハ石ノ主要部ヨリ成ル
側板 揚架耳室 旋回板
この 旋回止 軸匡

舊位ニ復セシム

蓋ねじ

ナット 座背 圧板 隔環 圧板

復坐機

点 林

ナット

復坐ばね



ばね筒

側板ハ二枚ノ三角形ノ板ヲ結合シタルU形ノモノニシテ
 テ上部ニ搖架耳ヲ設ケ形シ中央前方ニ高低照準機ノ軸
 ヲ結合スヘキ軸孔ヲ設ケ
 搖架耳堅ハ側板上部ニ設ケラレ搖架耳ヲ受ケ
 旋回板ハ円形板ニシテ上面ニ側板以上及方向照準機踏
 板ヲ結合ス中央ハ架匡中心ノ軸ト結合シ架匡上ヲころ
 ヲ介シテ転動ス
 ころハ旋回板ノ内部四箇所ニ結合セラレ「ベルビル」ば
 のニ依リ常ニ旋回板ト架匡上面トノ間隙ヲ有ラシメ方
 向旋回ニ依リ摩擦ヲ軽減セシム
 射撃ニ依リ衝力ハ砲架ノばねヲ正シ旋回板下面ハ架匡
 上面ニ接シ衝力ヲ架匡ニ伝フ
 旋回止ハ砲架側板左側ニ結合セラレ之ヲ正下スルコト
 ニ依リ架匡上面四箇所ノ孔ニ吻入シ方向ノ旋回ヲ止ム

軸匡ハ旋回板中央下面ニ結合セラレ架匡ノ軸ト結合ス

第六節 高低照準機

第九

高低照準機ハ左ノ主要部ヨリ成ル
 齒車堅 摩擦板装置 ヴォーム齒車 ヴォーム半齒車

(甲) (乙) ハンドル 軸

ヴォーム齒車ハ齒車堅内部ニ收容セラレ軸三點ニ結合
 セラルル各部ニ摩擦板装置ヲ有ス

ヴォームハ半齒車ニ結合セラレ「ヴォーム」齒車ト齒
 合ス

半齒車(甲)ハ「ハンドル」ノ軸中央ニ結合セラレ半齒車(乙)ト
 齒合ス

摩擦板装置ハ摩擦板(甲)(乙)ヨリ成リ「ヴォーム」齒車ノ内
 部ニ(甲)(乙)交互ニ結合セラレ射撃ニ依リ砲身ノ仰起力ヲ
 緩和ス

第十 機能

「ハンドル」ヲ回転セシムルコトニ依リ軸傘歯車(甲)ヲ回
転セシメ傘歯車(乙)「ウォーム」ヲ経テ「ウォーム」歯車ヲ
回転セシム
然ルトキハ「ウォーム」歯車ト結合セラレアル軸ハ回転
シ其ノ中央部ニ依リ齒弧ヲ上下ニ移動セシメ砲身ニ
射角ヲ附与ス

第七巻 距離板

第十一 距離板ハ左ノ主要部ヨリ成ル
托架 「ハンドル」 緊緩装置 指針 指針ぬじ 距離板
齒車 氣泡筒
托架ハ弧状ノ断面口形ノモノニシテ裏面中央部ニ腕ヲ
設ケ砲架ノ側板ニ結合ス
「ハンドル」ハ円環ニシテ外周ニ「ローレット」ヲ刻シ托架

ニ歯車軸ト共ニ結合セラル「ハンドル」ヲ回転セシムル
コトニ依リ軸ニ結合セラレアル歯車ト距離板ノ齒部
ト啮合セラレアルヲ以テ距離板ヲ移動セシム
緊緩装置ハ托架ノ裏面後方ニ装置セラレテ緊定ス
ルコトニ依リ「バ」ヲ用シ押桿ヲ距離板ニ圧着セシメ
距離板ノ移動ヲ止ム
指針ハ砲耳左側ニ指針ぬじニ依リ結合セラレ射角ヲ
附与スルコトニ依リ其ノ先端ハ距離板上ヲ移動シ射
角ヲ看讀セシムルニ供ス
距離板ハ托架内面ニ結合セラレタル弧形板ニシテ表
面ニ窓ヨリ一四〇〇「ミリ」ニ近ノ目盛ヲ刻ス外
面ノ齒弧ハ歯車ト啮合シ前端部ニ氣泡筒ヲ結合ス

第八節 方向照準機

第十二 方向照準機ハ左ノ各部ヨリ成ル

齒車室 摩擦板装置、ウオーム齒車、ウオーム、ハミ
ンドル 齒車、齒車軸

齒車室ハ円筒形ノ管ニシテ上部ニウオーム齒車ヲ
一ム及摩擦板装置ヲ收容スヘキ堅ク設ケ内部ニ齒車
軸ヲ收容ス

摩擦板装置ハウオーム齒車ノ内部ニ摩擦板(甲)(乙)交互
ニ結合セラレバ、トルクニ依リ緊定シ方向
旋回時ニ於ケル、
性力ヲ緩和ス

ウオーム齒車ハ齒車軸上部ニ結合セラレウオームト
啮合シ内部ニ摩擦板ヲ收容ス

ウオームハ、ウオーム軸ニ結合セラレウオーム齒車ト
啮合ス
ハンドルのウオーム軸両側ニ結合セララル

齒車軸ハ上端ニウオーム齒車ヲ結合シ下端ニ齒車ヲ結合ス
ハ架匡ノ齒圓ト啮合ス

第十三 機能

ハンドルヲ旋回スルコトニ依リウオーム軸ウオーム並ニウオーム
ト啮合シアルウオーム齒車ヲ旋回セシム

然ルトキ齒車軸、齒車ヲ旋回セシメ方向旋回体ヲ任意ノ方向ニ
旋回セシム

第十四 観望儀托架

第十四 観望儀托架ハ左ノ主要部ヨリ成ル

眼鏡托架(甲)(乙) 止桿把子

眼鏡托架(乙)ハ方向照準機齒車室上部ニ結合セラレ止部ニ止桿把
子ヲ結合ス

子ヲ結合ス

眼鏡托架(甲)ハ同(乙)ノ内部ニ結合セラレ其ノ内部ニ眼鏡ヲ結合ス
ヘキ孔ヲ設ケ中央ニ止桿把ヲ結合シ下部ニ筒ノ止桿ノ吻入ス
ハキ孔ヲ穿ツ

第十節 架 匡

第十五 架匡ハ左ノ各部ヨリ成ル

匡礎 軸 蓋ねじ 角度板 指針ノ覆爪
匡礎ハ円盤状ヲナシ中央ニ軸結合部ヲ設ケ下面ハ四角ノ盤状ヲ
ナシ取付ノ「ボルト」孔ヲ穿ツ上面四ヶ所ニ孔ヲ穿テ旋架旋回止
ノ吻入孔トナス
上面内周ニ八齒ヲ刻シ方向照準機齒車ト啮合スルニ供ス
軸ハ匡礎中央ノ孔ニ結合セラレ架匡ト旋架ト結合セシメ上方ニ

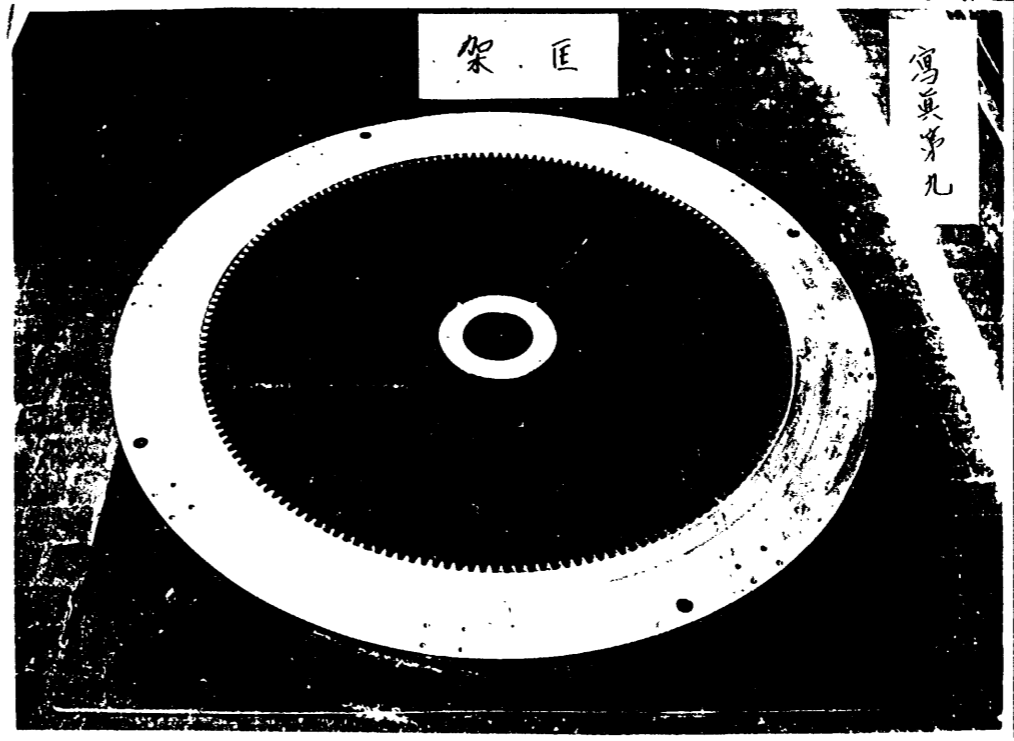
蓋ねじヲ螺着ス
角度板ハ匡礎外周ニ托板ニ依リ結合セラレ体上面ニ八全
周ノ六十四百分ノ二ノ目盛ヲ刻ス
指針ハ体ヲ旋架回転板ニ取付ケテレゴロ室内部ニ結合セ
ルゴロニ依リ角度板上ヲ回転ス

表 填 品					射擊用具箱	區分名稱	數量	摘	要
眼鏡箱	匪高板被	眼鏡被	砲口蓋	眼鏡托架(凶)笠栓					
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
九六式中迫撃砲ノモノニ同シ					銃中ニ箇夫				

第十八 木砲ノ屬品左ノ如シ

第十一節 屬品

第十六 腰掛(甲)(乙)ハ回轉板上ニ結合セラレ方向及高低照準手ノ腰掛トス
 第十七 踏板ハ上方及下方踏板ヨリ成リ砲右側ニ在リテ彈丸表填入ルニ
 供ス



品 項 装 罐 油 脂										脂					
品 入 收										中	木	脂	鉄	大	
リ ッ ト ル 金	中 油 罐	脂 肪 罐	ね づ み 形 油 差	漏 斗 形 油 差	山 油 罐	刷 毛 及 管 付 油 罐	脂 油 刷 毛				油 罐 (川)	桶 = 號	油 罐	油 罐	
一	一	一	一	二	一	一	一	一	二	二	一	二	一	二	一
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	四五式十五種加農ノモノニ同シ				三六式野砲ノモノニ同シ			四五式十五種加農ノモノニ同シ	鉄中ニ箇共

品 項 裝 箱 品 属										
品 入 收										
品 入 收		挾 布 (丙)	品 入 收					挾 布 (乙)	品 入 收	
四 程 反 二 程 ね じ 廻	十 二 程 九 程 反 六 程 ね じ 廻		十 〃 十 二 〃	十 二 〃 十 四 〃	十 七 〃 十 九 〃	二 十 一 程 反 二 三 程 両 口 入 メ ナ	二 十 六 程 反 十 九 程 両 口 入 メ ナ		鈔 柄	平 細 目 鈔
各 一	各 一	一	一	一	一	一	一	一	一	
							(基)鈔柄ニ号ニ同シ	(基)平細目鈔ニ号ニ同シ	(基)大ベンチニ号ニ同シ	

第二十一 本砲ノ豫備品尤ノ如シ

油	品 入 収 箱				品 備 豫				區 介 名 稱	數量	摘 要	
	儀 準 觀 板 高 架 砲 復 機 退 駐	品 備 葎 架 砲 品 備 豫 坐 機 品 備 豫	距 托 緊 緩 照 準 鏡 旋 回 止 ば ね	離 架 氣 泡 管 反 同 堅 ね	砲 架 旋 回 止 ば ね	砲 架 コ ロ ば ね	復 坐 機 復 坐 ば ね	機 退 駐 止 板 ば ね				駐 機 節 制 筒 ば ね
口	止 桿 ば ね	正 桿 ば ね	眼 鏡 托 架 甲	氣 泡 管 反 同 堅	緊 緩 装 置 ば ね	照 準 鏡 旋 回 止 ば ね	砲 架 コ ロ ば ね	復 坐 機 復 坐 ば ね	機 退 駐 止 板 ば ね	駐 機 節 制 筒 ば ね	六	徑 一 一 長 二 九
六	二	一	各 二	四	六	一	一	六	一	一	二	徑 一 一 長 二 九

砲 被 覆	板 彈 器	板 彈 器	裝 填 品		豫 備 品 箱	品 填 装		柄 桿 箱	柄 桿 箱	漏 斗 (小)	漏 斗 (中)
			環 入 筒 (乙)	環 入 筒 (甲)		除 掃 桿 桿 頭	洗 桿 柄 (柄 乙)				
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
					鉄 中 二 箇 共			九 六 式 中 迫 撃 砲 ノ モ ノ ニ 同 シ		七 年 式 三 十 種 長 榴 弾 砲 ノ モ ノ ニ 同 シ	三 八 式 野 砲 ノ モ ノ ニ 同 シ

箱中 品入収	品入収箱品備豫				
	品備豫	機	登	擊	擊
揺架防塵板	準桿安全栓	準桿安全栓	擊針	擊針	擊針
二	二	一	一	一	二
	徑 八 長 二八				

品入収箱品備豫												
箱品備豫	機	登	擊	擊	復	駐	品入収(甲)筒入環			駐		
							品入収	品入収	品入収			
擊針準桿	止	摘ナツト	擊針準桿	擊鉄安全栓	擊鉄ば	復坐機座環	駐退機緊塞環	〃	〃	〃	V形パンキン	座環
二	一	一	一	一	二	八	二	(丁)	(丙)	(乙)	(甲)	(丙)
徑 二 五 長					徑 二 四 長	徑 七 厚	徑 一 三 厚					

第三編

取 扱

第一章

分解及結合

第一節

通 則

第十九

分解結合ハ手入検査修理ノ爲特ニ必要ナル場合ニ

限リ之ヲ行フモノニシテミダリニ行フベカラズ

ノ精度ニ關係スル部品ニ於テ殊更ナリ

第二十

分解結合ニ當リテハ規定ノ順序方法ニヨリテ静カ

ニ行ヒ分解セル部品ハ破損混同紛失ヒザル様適當

ノ場所ニ順序正シク配列シ置クヲ可トス

第二節

制 限

第二十一

凡ノ部品ハ造兵廠ノ外分解スベカラズ

艱難儀 同托架

第二十二

凡ノ部品ハ熟練ナルモノヲシテ行ハシムベシ

駐退機 復生機

第三節

主要部ノ高脱

三四

第二十三 照準具ヲ分解スルニハ止桿把子ヲ緩メ上方ニ高脱ス

第二十四 砲身ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

- 一 駐退機ノ治塞桿後端ヲ止板ヲ起シナットヲ旋回シ
- 二 復坐機ノ曳棒後端ノナット生板ヲ高脱ス
- 三 砲身ヲ水平ニシ播架ヨリ高脱シム此ノ際砲身ハ相當重量ナルヲ以テ特ニ危害豫防ニ注意スヘシ

又船舶ノ起重機等ヲ使用スレバ分解容易ナリ

第四節

撃発機

第二十五 撃発機ヲ分解スルニハ左ノ区分ニ依リ行フ

- 一 撃針準桿ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル
- 1. 下端ノ止栓ヲ抜ク
- 2. 摘ナットヲ螺脱ス
- 3. 安全栓ヲ発火姿勢トナシタル後撃針準桿ヲ上方ニ抜キ出ス
- 4. 撃針準桿はねヲ上方ニ撃針準環ヲ下方ニ抽出ス

二 撃針ヲ分解スルニハ後面ノ蓋板ヲ螺脱シタル後撃針ヲ抽出ス

第二十六 安全機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

- 一 ねい筒ヲ螺脱シタル後準桿安全栓及同はねヲ脱ス
- 二 撃鉄軸右側ノ駐板部ヲ起シテ撃鉄安全栓ヲ左方ニ抜ク
- 三 撃鉄軸ヲ右方ニ抜キ撃鉄ヲ脱ス
- 四 撃鉄ばねハ之ヲ内方ニ正シツ、中央部ヨリ抜キ出ス

第二十七 押ねじ托板ハ山ねじヲ螺脱シ分解ス

三五

第二十八

結合ハ分解ト反対順序方法ニ依ル但シ左ノ英ニ注意スヘシ

撃針準桿ノ斜面ヲ前方ニ向ケ撃針ハ之ニ適合スル如ク傾斜孔ヲ上方ニ向クルヲ要ス

第二十九

第五節 駐退復坐機

駐退機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

- 1 橋架ニ最大射角ヲ附与ス
- 2 注液孔蓋ぬレテ緩廻シ押ぬレテ螺脱ス
- 3 緊塞体ニ節制桿ヲ結合シタル儘抽出ス
此ノ際液ハ流出スルヲ以テ適當ナル容器ヲ以テ受クルヲ要ス
- 4 治塞桿内面ニ結合セラレアル治塞筒ヲ引ぬレテ脱シ螺脱シ節制桿ト共ニ高脱ス
- 5 ピンヲ脱シ緊塞体ト節制桿ト分離ス

6 節制桿端ノナット(乙) 節制弁 浮筒ヲ高脱シ治塞筒ヲ節制桿ヨリ分離ス

7 橋架ニ最大俯角ヲ附与ス此ノ際液ノ大部介ハ流出ス

8 マツキン抑ヘテ螺脱シ緊塞具ノ張力ヲ除去ス

9 治塞桿ヲ静カニ前方ニ推進セシメ駐退管ヨリ分解ス

10 駐退管後部ノ緊塞具ヲ高脱ス

第三十

結合ハ分解ノ反対順序方法ニ依ル

第三十一

復坐機ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

- 1 引ぬレテ脱シ蓋ぬレテ螺脱ス
- 2 割ピンヲ脱シナットヲ戻回シツ、ばぬノ張力ヲ完全ニ除去シ
楔棒ヨリナットヲ高脱ス

3 圧板(甲)復坐はゆり高戻ス

4 奥棒はゆり筒後方ニ抽出ス

第三十二 結合ハ分解ノ反対順序方法ニ依ル

第四編 射撃上ノ注意

第一節 射撃前ノ注意

第三十三 射撃前ニハ左ノ件ニ注意スヘシ

一 撃発機 能及安全機能ヲ良檢スヘシ

二 駐退液 不足セル時ハ補充スヘシ

三 後復坐ノ 滑走部ニ注油ス

四 其他各摩擦部ニ注油ス

第三十四 駐退液ノ良檢並ニ補充

砲身ニ最大射角ヲ附子シ駐退管前方上部ノ注液孔
蓋のじり脱脱シ良檢シ不足セルトハ補充ス

第二節 射撃間ノ注意

第三十五 射撃間ハ左ノ件ニ注意スヘシ

一 塵発ヲ行フ場合ニハ静カニ装填スヘシ

二 射撃間液ノ漏洩スルコトアラバ緊塞部ノ不良ニ依ル

ヲ以テ緊塞ヲ十分ニシ或ハ部品交換ヲ行フベシ液ノ

不足ハ後坐長過大ノ原因トナル

三 僅少ナル復坐不足ハ液ノ膨脹又ハばゆり衰損ニヨル

ヲ以テ液ノ排出ヲ行ヒ調整スヘシ大ナル復坐不足ハ

復坐ばゆり折損ニ依ルモノニシテ交換スルヲ要ス

四 稍長時間ニ亘リテ射撃ヲ行フ場合ハ射撃ノ間断ヲ

利用シテ各部ノ故障緩ミ等ヲ調べオシ得レハ給油ス

又砲口内ノ不燃物ヲ拭テ取ルハシ
五不発ヲ生スル原因左ノ如シ
ノ撃針ノ突出量少キカ又尖頭カ極度ニ汚損他物ヲ介
在スルトキ

之壘発射撃ニアリテハ腔中及彈頭ノ汚シニ依リ活下
速度遅キ為不発ヲ生スルコトアリ
3 薬筒ノ不良ニヨリ不発ヲ生スルコトアリ
不発ヲ生シタル時ハ少時経過ノ後再び撃発ヲ行ヒ
尚不発火ナルトキハ少時経過ノ後安全姿勢トナシ
抜弾器ニテ取り出スハシハ此ノ時ハ小隊長ニテ注意ス
六 撃発射撃ニ於テ撃針ハ突出セラルマ、舊位ニ復ヒザル
コトアリテ壘発トナルコトアルヲ以テ良ク撃針準備
ノ舊位ニアルマ否ベテ確ク装填スルヲ要ス

第三節 射撃後ノ注意

第三十六 射撃後ニ於テハ成レヘク速カニ砲口ノ手入ヲナシ
十分塗布スヘシ又各部故障ノ有無ヲ調べ異常アル
モノハ其ノ原因ヲ探求シ修理ノ處置ヲナスヘシ

